

令和3年度

事務所だより 第2号

令和3年7月1日
益田教育事務所

「教わり力」と「しまねの学力育成推進プラン」

学校教育スタッフ 企画幹 瀬戸 洋

先日何気なく手にした冊子に「教わり力」という言葉が載っていました。筆者が学生を指導していると、アドバイスに対して「そうだったのか」「では、この場合はどうしたらよいのか」などの反応を示す学生とあまり反応を示さない学生がいる。前者の場合は教える側の指導意欲が高まり、必要以上に、良い意味での「余計なこと」まで教えてしまうことがあるが、後者の場合は問答形式のアドバイスで終わってしまうことが多い。そして、そういう後者の場合は学生が十分理解していないことが多いといった内容でした。自分自身で振り返ってみても、子どもに乘せられてつい話が脱線してしまったような授業の時の方が、案外教える側も教わった側も記憶に残っていて、テストの結果が良かったような経験が確かにあります。教え方（指導力）を高めていくことはもちろん大切ですが、教わる方にも、アドバイスに積極的に反応したり、うなずいたりする「教わり力」をつけていくことも学力向上につながるのではないかなと感じました。もちろん、それを含めての教え方（指導力）ではありますが。どうすれば、このような力を身につけさせていくことができるのでしょうか。

実はこの問いへの回答のヒントにつながるプランが3月に策定されました。それが、「しまねの学力育成推進プラン」です。

「しまね教育魅力化ビジョン」に掲げる「自ら課題や展望を見だし、粘り強く挑戦し学ぶ人」の育成を具現化する向こう4年間（R3～R6年度）の行動計画となります。

このプランでは①授業の質の充実 ②家庭学習の充実 ③地域に関わる学習の充実を取組の3本柱としています。ここでいう授業の質の充実とは、どうしたら子どもたちが受け身にならずに学習に向かうのか、どうしたら子どもたちに人生や社会で生かすことのできる確かな学力をつけることができるのかを授業の中で追求することを指します。

そのために主体的で対話的な学習を授業の中に取り入れていく方策として、地域と関わる学習や家庭学習とのつながりを強めた学習、一人一台端末や学校図書館を効果的に活用する学習、小学校高学年における教科担任制の推進等々、魅力的な手法を取り上げています。

県としてはこのプランに沿った施策や学校への支援策を市町村教育委員会と連携し推進して参ります。

ぜひ、本プランを子どもたちの指導に直接関わる皆さん一人ひとりが手に取り、日々の授業を見直す視点としてご活用ください。（しまねの情報教育Web 「EIOS」からダウンロードすることができます。）

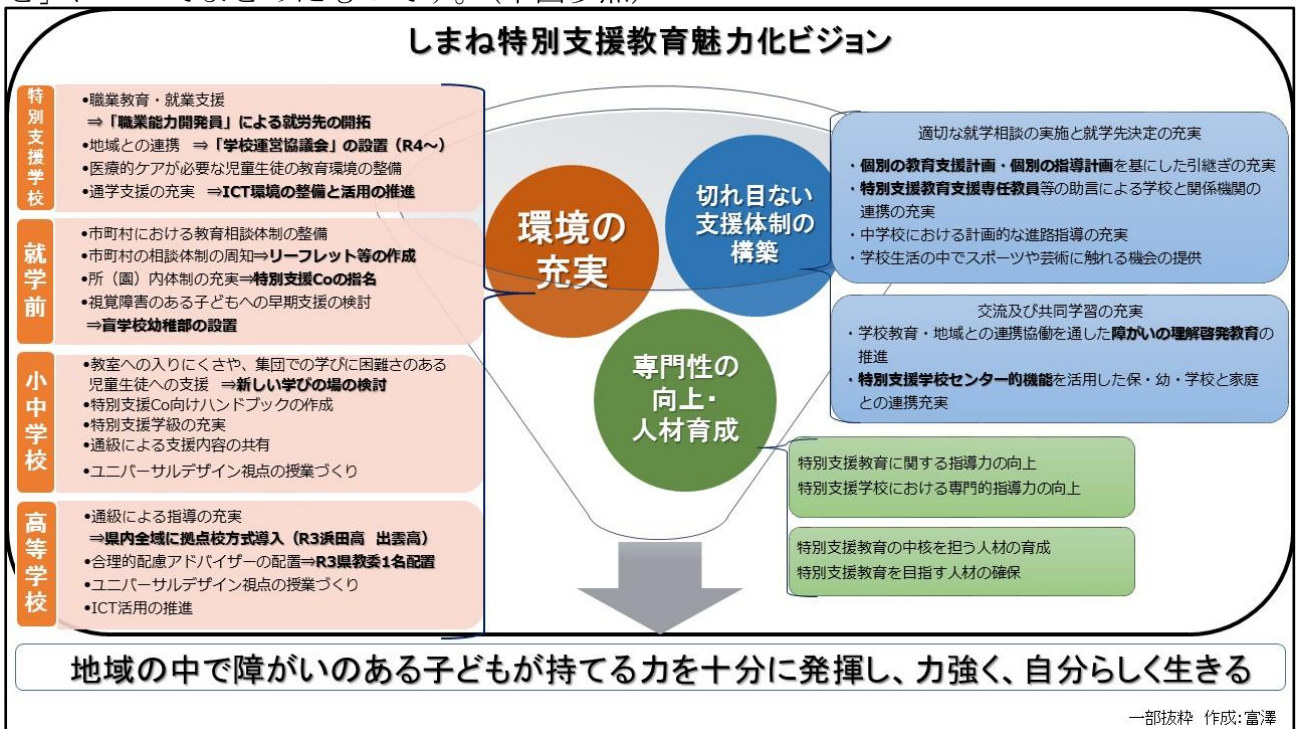


しまね特別支援教育魅力化ビジョンについて

学校教育スタッフ 指導主事 富澤 孝輔

新年度が始まり3ヶ月が経とうとしています。例年がない前倒しの梅雨到来と、依然として続くコロナ渦の中で、私は「予測不可能な今こそ、目の前の課題に対する自分自身の対応力が試されているのでは？」と、自問しながら日々勤務しています。見通しのもちにくさは、大人も子どもも、大きな不安材料ではないでしょうか。子どもたちにとって、少しでも見通しがもてるように、毎日行うこと、すべきことが分かる「安心感」は大切にしたいものです。

さて、令和3年2月に「しまね特別支援教育魅力化ビジョン」が策定されました。これは、島根県の特別支援教育における基本的な考え方や、今後10年間で「取り組むこと」についてまとめたものです。(下図参照)



策定の背景には、特別な支援を必要とする子どもの増加があり、特別支援教育の更なる充実が求められていることがあります。具体的には、①特別支援学級在籍児童生徒の増加(特に自閉症・情緒障がい特別支援学級在籍児童の増加)、②特別支援学校の高等部への入学者の増加、③通常の学級における困難さの多様化、など、様々な状況があります。本県ではこのような現状に対応すべく、3本の柱(環境の充実、切れ目ない支援体制の充実、専門性の向上・人材育成)を核にして、取組を推進していきます。

近年、特別支援教育へのニーズは更に高まっています。その中で、様々な困難さのある子ども1人1人への多様な学びの場を整備することと同時に、すべての子どもたちが共に学ぶ「インクルーシブ教育システム」の推進が求められています。皆さんにとって本ビジョンが特別支援教育と向き合うための道標になり、取り組む方向性が見通せる「安心感」になることを願っています。ぜひ特別支援教育課のHPよりダウンロードしていただき、特別支援教育のより一層の充実にお役立てください。

島根県教育委員会 特別支援教育課 HP

<https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/tokubetsu/keikakutou/tokushimiryokukavision.html>

検索



「付けたい力」を明確にして授業改善に取り組みましょう

学校教育スタッフ 指導主事（兼）企画幹 上田陽一郎

児童生徒が確実に力を付ける授業を計画するには、指導者が「付けたい力」を明確にしてから学習活動を設定することが大切です。昨年度から小学校で全面実施（中学校では本年度から全面実施）されている「学習指導要領」の解説を踏まえながら、授業改善を進めていきましょう。

「付けたい力」を明確にして学習活動を設定するとはどういうことですか？

児童生徒にどんな力（身に付けさせたい資質・能力）をどのような方法（授業における様々な学習活動）を用いて付けていくかをはっきりさせることです。

「付けたい力」や学習活動どのように設定したら良いですか？

- ・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領の解説等を踏まえます。
- ・児童生徒の実態やこれまでの学習履歴（前時までの学習内容・状況）を踏まえます。

「付けたい力」を明確にして学習活動を設定すると、どのような効果がありますか？

中学校国語を例に見てみましょう。

【読むこと】『枕草子』を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを

広げたり深めたりできるように

（付けたい力）

感じたことや考えたことをグループ内で述べ合い、ノートにまとめる。

（学習活動）

〈事後協議場面のイメージ〉



今日の国語は、生徒が活発に話し合っていました。付けたい力はどんな力でしたか？



『枕草子』を読んで、清少納言のものの見方・考え方を伝えたり、それと比較して自分が感じたことや考えたことを友だちに伝えたりする力を付けることです。知識や経験と結びつけることが難しかったようで、内容が深まらないグループがありました。

〈生徒が授業の終末で振り返る場面のイメージ〉



知識や経験と結びつけて、自分の考えを広げたり深めたりするのに工夫したことはどんなことですか。



ものの見方や考え方の特徴を説明するのが難しかったので、共通点を書き出したり、友だちに説明して意見を聞いたりしました。

「付けたい力」を明確にすることで…

- 教師は、何を評価するか（見取る視点）が明確になります。
- 児童生徒は、何を振り返ればよいか明確になります。

授業改善ができているかどうかを考えるとときには、次の視点を大切にしましょう。

- 「付けたい力」が明確で、児童生徒にその力が身に付いたかどうかを確認できていたか。
- 「学習活動」が「付けたい力」を付けるために、効果的であったか。

GIGA スクール構想で導入された1人1台端末の活用例

益田市教育委員会 派遣指導主事 植田幸司

国が進める GIGA スクール構想を活用し、各小・中学校にも児童生徒に1人1台の端末が導入されました。

「GIGA」とは、「Global & Innovation Gateway for All」の頭文字をとったものです。学校教育の段階から最新の技術を取り入れることで、地域や学校、家庭環境による IT 格差を無くし、誰もが現在または将来的に IT や ICT 技術を使えるようにすることが目的です。

「GIGA スクール構想の実現へ」（文部科学省）では、ICT（1人1台端末）の活用により充実する学習として、次のような例が示されています。

- | | |
|----------|---|
| ①調べ学習 | 課題や目的に応じて、インターネット等を用いた、様々な情報の主体的な収集・整理・分析。 |
| ②表現・制作 | 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作。 |
| ③遠隔教育 | 大学・海外・専門家との連携。過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会。入院中の子供と教室をつないだ学び。 |
| ④情報モラル教育 | 情報・情報技術を活用する場面（収集・発信など）が増えることによる、情報モラルを意識する機会の増加。 |

益田市では、各学校での1人1台端末の導入が円滑に進むよう、訪問指導を行っています。これまでの訪問で見させていただいた活用例を紹介します。

【1】オンライン会議の機能を活用した事例

ある小学校では、オンライン会議システムを使って指導を受けながら、プログラミング学習を行っていました。講師は東京の会社の方々です。児童1名に1名の講師がついてくださり活動しました。全児童が（1年生も！）花が咲いていくアニメーションなどを作成することができました。他にも、オンライン会議システムを欠席の生徒とのやり取りに使用したり、社会科で沖縄の方とのインタビュー調査に活用したりしている学校もありました。



【2】カメラ機能を活用した事例

ある小学校では、学習活動ソフトウェアの追っかけ再生機能を使って、友達からマット運動のアドバイスをもらう体育の授業を行っていました。端末で自分の動きをみることで、アドバイスの意味をより深く理解できていました。他にも、理科で花の写真を撮って観察記録を残したり、借りた本の奥付を撮影し記録に残したりしている学校もありました。



端末のよさや欠点は実際に使ってみないと体得できないかと思います。ぜひ、上記の活用例を参考に、日々の授業の中でまずは使ってみてください。